

母の料理

和庄小学校五年 大野 花

あたしは、母の料理が大好きでした。毎日
毎日つかれていてもおいしいご飯を作ってく
れる。それが当たり前かと思っ ていました。
私は生手れて来てから父の料理はほとんど食
べたことか無く、父が温めるチヤハニいら
いレか食べたことか無か、たのです。
母はパンケーキを作っ てくれたリクツキ
を作っ てくれたりいろんな物を作っ てもら

ていました。私が四年生のころ、ちやうど一
年前のことです。母はどつせんめの尻に無い
病気がかかっ、二日後には一回も言葉を発す
る事なく、目を閉くこともなく静かにおむり
につかましました。母が二十三日に最後の食事と
して作っ た料理は焼肉でした。五人家族だっ
たので四人にわけてしまひさみしかつた。最
後に作っ た一玉いの肉をその玉子にしておて
しまひ、母が二十三日の朝五時には料理の左
りであらうあらしい音を立てておていた。

数分後には息をしておらず、六年の姉、二年
の弟とともに服に着かえ父が救急車をよぶ。
(なぜ私のお母さんがああなつたのだろう。
今まで聞いたことか無い音たつた。)と私は今
でも思っている。

あの日の前日は土曜日で三連休の初日でした。
母は金曜日に私かじやくでいいめらぐ、
泣いて帰って来た日はいいめらぐ子をしかり
つけ、そのじやくをやめた。夜ご飯は、チリ
ズがとうとうとしていろいろものたつた。

おいしーい。
いろんな物にチリズをかけて食べた。それには
それはおいしくてまた食べた。おいと思つていた
そんなゆめはかおう事は無かつた。

もう一年もたつ。母の料理はどれもおいし
く、家族のためにと工夫をしてくんでいた。
もう最近はいんを味たつたのさえわすれて来
てしまつている。もう一度だけいいから食
べたいと思うか、いい人はいないのだ。

土曜日の最後は食べた母の焼肉。

たっ た一切れの焼肉だっ たりび、固かっ たけ
び、四人で分け合っ て食べました。

父の料理は中か料理が多く、母は洋食、和食

でしかたが、私はやっぱり母の料理が大好きで

す、誰にも作れない母だけが作れる料理。私

は少しでもそれ近くに努力していま

す、三十四といつ若い年であつた私の母は、

トイレに行きたくて起きた私かりびんがル行

くとがけしゆをしていました。深夜の十二時に、

二時にはまた起こた私にまた言つたのです。

っ はな、早くねなさい。明日こそ平町のニン

びらさんに行くんでしょ？ 早くねないと朝日

朝ご飯を食へてからおいで行くかも知らない

のだから。

と私と人世最後の話をして深いねむりに

た、

(お母さん、今までありがとう。これもおい

しい料理だったよ)

私の母は大好きな料理とも長いねむりに

っ いたのでした。